

くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子



迫りくる卒業証書授与式 思い残すことはありませんか！

来週3月19日（火）は、平成30年度に入学した現6年生の卒業証書授与式です。小学校生活6年間の最後の日まで、あと6日となりました。登校できる日に限っては、あと4日です。6年生の皆さんは、入学当時の幼い頃とは見違えるほどに成長してきたと思います。その間には、嬉しかったことや楽しかったことだけでなく、悲しかったことや辛かったことなど、様々な出来事があったと思います。また、困難なことに出会ったときには、家族や友だち、先生方の力を借りながらも、最後には自分自身で判断し、行動することで、その困難を乗り越えてきたのではないかと思います。そういう一つひとつの出来事すべてが思い出となります。卒業証書授与式の挙行中に思い出されてくる映像は、その人にとって小学校生活の中での最も象徴的な場面なのかもしれません。「その場面は、きっとこういう場面に違いない」と、自信をもって言い切ることのできる人もいると思いますが、「思いもよらない場面」であることが結構多いとも言われます。心の片隅にずっと押しやられていた「ちっぽけだけど大切な思い出」が、ふと浮かんでくるのかもしれません。どんな思い出なのか、楽しみでもあります。その思い出が、自分にとって「よい思い出」であっても、たとえ「よくない思い出」であっても、そういう思い出は、いつまでも大切にしていきたいなと感じます。

さあ、6年生の皆さん、卒業証書授与式が迫ってきました。この栗真小学校で過ごすことのできる日は、あと4日となりました。何かやり忘れたことはありませんか。または、伝え忘れたことはありませんか。残り少なくなってきた1日1日を、大切に過ごしていきましょう。そして、一瞬一瞬の時を、みんなが笑顔で、楽しく過ごしていきましょう。

そして、卒業証書授与式の日には、今まで支えてきてもらった家族の皆さんに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えて、晴れの舞台が待つ「津市立栗真小学校」に向けて出発しましょう。在校生の皆さんや、先生方、そして、最も大切なおうちの方々の前で、卒業証書を堂々と、立派に受け取ってくださいね。6年生の皆さん、おめでとう！！

タブレット端末の返還式を行います！

卒業式の前日である3月18日（月）に、6年生がタブレット端末の返還式を行います。このタブレット端末は、津市教育委員会から、学習するための道具として、児童一人ひとりに貸し出されたものです。貸与式で貸し出されてから、毎日のように学習に活用し、様々な使い方を習得してきました。今年度は3年目ということもあり、家庭に持ち帰って学習することも多くみられ、学習の幅が広がってきています。来年度、中学生になる6年生の皆さんは、中学生になっても、タブレット端末が貸与されます。津市立の中学校の場合、タブレット端末の種類が異なりますが、今までのように、大切に扱ってくださいね。

「みえの学力向上県民運動」をご存じですか！

三重県と三重県教育委員会では、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの希望と未来を支える学力を育てていく取組として、平成24年度から「みえの学力向上県民運動」を展開しています。去る1月31日に開催しました「令和5年度みえの学力向上県民運動推進会議」での協議をふまえ、基本方針が取りまとめられました。一部を抜粋して紹介します。

まず、基本理念としては、「一人ひとりの学びを支えていくという認識を学校・家庭・地域等が共有し、相互に連携・協力しながら、子どもたちが学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できるよう、社会総がかりで取り組んでいく」というものです。そして、取組の視点を3点挙げ、以下のように説明されています。なお、紙面の関係で一部を省略しています。

①「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます。

- 子どもたちの学力の育成にあたっては、学習指導要領をふまえ、「何を理解しているか・何ができるか」（知識及び技能）、「理解していること・できることをどう使うか」（思考力、判断力、表現力等）、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力、人間性等）といった視点を重視し、総合的に捉えていく必要があります。
- これらの資質・能力をバランスよく育成するため、学校では、協働的な学びや個に応じた学びの充実を図ります。子どもたちが日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見いだしたり、課題の発見と解決に向けて、他者と協働し、自らの考えを広げ深めたりするなど、探究的な学びを大切にした授業改善や、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな取組を進めます。

②「学びと育ちの環境づくり」を進めます。

- 子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「わかった！できた！」という達成感を積み重ね、自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。
- 家庭では、テレビやゲーム機、スマートフォン等の画面を見る時間について話し合っルールを決めて守ったり、学習時間等を確保したりするなどの自己管理能力を育て、学習習慣等を確立します。
- 社会全体で「教育の原点」である家庭教育を応援するため、地域のさまざまな主体が連携し、地域の多様な資源を最大限生かして地域で支える体制づくりを進め、保護者等や子どもの学びを支えながら家庭教育の支援の充実を図ります。

③「読書をとおした学び」を進めます。

- 子どもたちは、「読書」を通じて、新しい世界を知り、感動し、自分なりの考えを持つことができるようになります。読書経験を積み重ねていく中で、感性を磨き、判断力を伸ばし、表現力等を高めるとともに、コミュニケーション能力の基礎を築いていきます。また、多くの知識を得たり多様な文化に触れたりすることにより、生涯にわたって自発的に学習する習慣を身につけていきます。
- そのため、発達段階に応じて読書習慣を身につけることができる取組や、学校・家庭・地域のそれぞれの役割に応じて読書を行う環境の整備、読書をする機会の提供、読書活動の啓発等、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立するための取組を進めます。

特に、②③の視点については、ご家庭でも実践していくことのできる取組なので、ぜひ取り組んでいただけたらと思います。